

ちわい

2018
お盆号 VOL.153
浄土宗西山深草派宗務所
総本山 誓願寺



◆ 絹本着色 地蔵十王図 ◆

朝鮮・李朝時代の作。錫杖・宝珠をとる円頂の地蔵菩薩を中心に、まわりに十王や菩薩、そして最前面に着冠、道服の閻魔王と僧形の道明和尚が合掌して対面する相に描く。これには説話があって、唐の大暦十三年、開元寺の道明は突然地獄の使者につれられ、閻魔王の前に引き出されたが、それが竜興寺の道明との人違いと知れ、この世に帰されることになった。この時、満月の如き地蔵菩薩が現れ、亡者裁判の時はこれを助けるものであることを知った。道明はこの世に帰り、目の当たりにした情景を図画して人びとに伝えたという。図はこれを表したもので、同様な図は敦煌や朝鮮から比較的多く発見されており、大陸地蔵信仰の民間普及の様子を知る上で、貴重な資料となっている。

◆ 目次 ◆

- 開宗八百五十年に向けて①
 - 賢問子行状記 ②③
 - 総本山誓願寺 写経・写仏体験のお知らせ
 - お釈迦さまの十大弟子 13
 - インド **ドタバタ** 夫婦道中記 ④⑦
 - 総本山誓願寺だより
 - 何でも“お寺探偵団” Vol.51
- 海松山 西用寺

開宗八百五十年に向けて ①

布教師会 稲田順学

「法然上人のおもかげ」

平安時代の承安五年（一一七五）円光明照（わじゅんほうにだいにし）和順法爾大師こと元祖法然上人は、それまでの仏教にはなかった、お念仏をすべての中心とする宗旨「浄土宗」を新たに開かれました。西暦二〇二四年には、開宗八五〇年という節目がやってきました。

法然上人の求道の出発点は、父上の遺言でした。「わたしはいづれ敵に殺される。だが敵を恨むな。そなたが復讐をすれば、今度は敵の子がそなたを殺すであろう。憎しみの連鎖は断ち切って、仏道に励んで私の菩提を弔ってくれ」。この重い言葉を胸に、法然上人は十五歳で比叡山に登り、天台宗をはじめとしてあらゆる仏教を学ばれました。

学問に関してはとても優秀で、「智慧第一の法然房」と、お釈迦さまの十大弟子に例えられるほどでした。

しかし、法然上人自身は悩み続けていました。「私は戒（僧侶生活のルール）・定（精

神集中の修行）・慧（智慧をみがく）」という仏教の基本を努力してきました。だが振り返ってみると、自分はどれ一つ満足にできていない。私のような愚か者が救われる道はないのか。ああ、悲しい。いったいどうしたらいいのか。」。体面は繕えても、心の中では妄念の消えない自分が、あるがままで救われる道を求められたのです。

やがて、中国の唐時代に活躍された善導大師の書物『観経疏』に出会われました。そこに「人々がお念仏を称えることこそ、お釈迦さまと阿弥陀さまの願いである」と書いてあります。この時、「お念仏だけですべての人が救われる！」と確信を得られ、浄土宗を開かれます。法然上人、四十三歳。あまりの感激に、涙があふれて止まらなかつたそうです。

その後、お念仏の教えは静かに、しかし着実に広まっていきました。大原での問答、東大寺での講義。諸宗派の高僧たちが束になつて論破しようとしても、法然上人の新宗派「浄土宗」の教えは揺るぎません。

「あなた方の教えも確かにすばらしい。だが、今の世の私たちにそれが実践できますか？

例えるなら、祖父の草履を孫が履こうとするようなもので、ふさわしくない。お念仏は、だれでも、いつでも、どこでもできます。しかも、あらゆる仏さまがほめたたえている最高の教えなのです」。

晩年、浄土宗に対する諸宗のねたみに、弟子の素行不良なども重なって、弟子四名は死罪、他の弟子数名と七十五歳の法然上人は流罪となつてしまいました。しかし、「たとえ首を切られても、お念仏を広めずにはおられぬ」と、苦境にも負けないその姿に、弟子たちはみな涙しました。

最後に、二十九歳で入門された親鸞聖人が見た、師匠法然上人のお姿をお伝えしましょう。法然上人は、信心深い庶民が訪れた時には、いつも「必ず往生できますよ」と、やさしく微笑まれました。一方、いかにも賢そうな人が議論しようと訪れた時には、「往生できるか危ういものだ」と、いぶかしげにおっしゃいました。今もありありと思ひ出されます。——親鸞聖人は、このエピソードを五十年も後の八十八歳の時に手紙に書いておられます。

ここに述べたのは、膨大な法然上人伝のほんの一部にすぎませんが、すべて弟子たちが印象深い師匠法然上人のお姿を記録されたものです。開宗八五〇年を六年後に控え、少しでも上人のおもかげを偲んでいただければと思います。

賢問子行状記

23

宝蔵寺住職 小島英裕

第十五話

「現身往生の人」

大員氏は、法名は分かりませんが、生まれは羽州田何郡（現在の東北地方）です。青年の頃より田舎を離れ、花の都・京都に住むことにあこがれました。応永の頃（1394～1428）に上京し長らく暮らしました。壮年の頃より深く世の無常を悟り、仏道に入り、その志は堅固なものでした。学問や芸事を学ばず、世の営みをせず、一日中願うところは、偏に極樂往生、修める行はすべてお念仏、お念仏以外のことをすることはありませんでした。その行いは晩年にまで及び、いよいよ信心堅固の行者となり、臭みの強い野菜や肉魚を断ち、罪を犯さず、平素は

仏前で献花、焼香、礼拝を行いました。実に前代未聞の希有な方でした。数年、前より誓願寺の阿弥陀さまを信仰し、仏前に参拝し、お念仏を一万回称え、阿弥陀さまに誓いました。

「私は若い頃よりただ極樂を望むだけで、今日まで怠ることはありません。私は罪深い人間、この娑婆世界を厭うものです。我が身は煩惱具足の凡夫、迷いが起こらないうちに、魂を浄土に移したいものです」

と涙を流しながら、お念仏を称え、参拝を終えました。

それから年月が経ちました。ある夜、員氏は夢を見ました。八十歳程の僧侶がおいでになり、枕元に来て告げました。

「そなたは他力本願に帰依し、念仏することは誰よりも勝れ、精進は素晴ら

しいものである。私は、日頃そなたが信じる誓願寺の阿弥陀如来、そなたの命終の時期を知らせるために来たのだ。明日の午前十時頃、病も無く、苦痛も無く、肉体を捨てることなく、その身そのままで往生するであろう。平素の念仏の功德が現れている。仏の来迎と引接を疑うことがないように」

と告げて消えました。員氏はこのお告げを受け、涙を流して喜び、同行の人にこのお告げを知らせました。沐浴し、体を清め、お念仏の声は普段より大きく、数は増えました。そのお告げどおり、嘉吉二年（1442）八月十五日正午、紫雲が空を覆い、素晴らしい香りが漂い、無数の化仏と菩薩と来迎の雲に乗ってやってきました。そして員氏はその身そのまま極樂へ往生を遂げました。その身そのままの往生は昔、勝尾寺の善仲、善算の両僧もそうでありました。多数の書物に記録が残っています。阿弥陀さまのお力は計り知れません。そのお心が深遠であることを信じましょう。

(つづく)

総本山誓願寺 写経・写仏体験のお知らせ

平成二十七年五月より写経体験を開催しております。昨年からは写経に加え、写仏も体験して頂いており、おかげさまで多くの方に参加頂いております。

今年も毎月十八日（観音さまのご縁日）に開催いたしておりますので、皆さまのご参加をお待ちしております！！



実施日程 (毎月18日開催！)

5月18日(金) 6月18日(月) 7月18日(水) 8月18日(土) 9月18日(火)
 10月18日(木) 11月18日(日) 12月18日(火) 1月18日(金) 2月18日(月)

時間：15時～16時半頃まで 場所：誓願寺会館2階 志納料：1,300円

誓願寺の写経・写仏体験は…

- ・僧侶による法話
- ・皆さんと一緒に読経
- ・写経(写仏)を体験して頂きます！

また、ご参加頂いた方には…
 写経体験限定の記念朱印をお授けします！
 納経帳をお持ちの方は、ご持参下さい。

浄土宗西山深草派 総本山誓願寺
 TEL：075-221-0958 Email：info@fukakusa.or.jp
 誓願寺ホームページ：http://www.fukakusa.or.jp

【お申し込みについて】
 全日要予約となります。(限定10名様)
 ご予約は、参加希望日の前日までに
 ①希望日程 ②お名前 ③ご連絡先
 ④希望の体験内容(写経 or 写仏)を、
 お電話または Email にお知らせ下さい。

【当日の受付について】
 受付は13時半～となります。
 新京極山門より本堂入って左手の、納経所までお越し下さい。

- 実施日程 毎月十八日
 - 時間 十五時から 十六時半頃まで
 - 志納料 千三百円
- ※内容詳細につきましては、誓願寺ホームページをご覧ください。

「ほとけほとけないお念仏編」刊行に寄せて

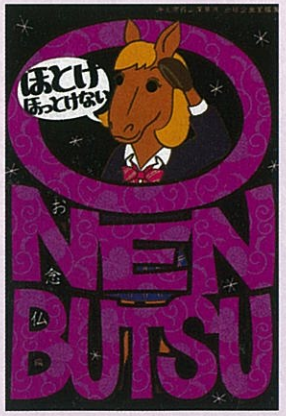


職住院長 長仙院 吉良 勸学 京都

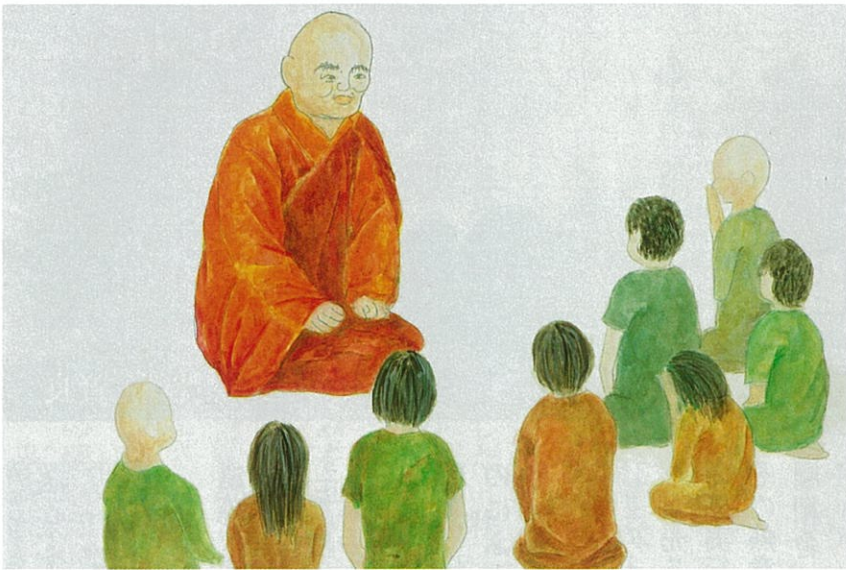
「み教え」が分かっていないからです。一般大学の教授をはじめ、各宗派の研究者たちを納得させるためには、重箱の隅をほじくるような、きめ細かい論文を書かなければなりません。そしてその成果を、各宗派の忙しい住職方に利用していただくために、小冊子を出版したり、宗学会のホームページに載せたりして、普及に努めております。

しかし、私たち住職の務めとして、檀信徒、ひいては全国の法然上人を信仰する人々に本当の法然上人の「み教え」をお届けするには、ほど遠いと焦っているのではありません。最近、本派の出版企画室が「ほとけほとけない」など檀信徒への直送便・小冊子を発行してくださりました。「千天の慈雨」「渡りに船」とはこのことです。私は諸手を挙げて喜んでおります。

一人でも多くの方が、この冊子を手にとって法然上人の「み教え」に触れ、心の安らぎを得られますよう、切に願っております。どうかよろしく願いたします。



宗派発行小冊子「ほとけほとけない お念仏編」をご希望の方は、菩提寺または誓願寺宗務所までお問い合わせください。



様々な人々に説法する富樓那尊者

説法第一 富樓那尊者 その3

お釈迦さまの
ご生涯
外伝

お釈迦さまの十大弟子 13

絵・豆田織奈 文・釈尊法話会

富樓那尊者は仏教の未開地へ行きたいとお釈迦さまにお願いしました。「私は西にあるシュロナ国へ行き、お釈迦さまの教えを伝えたいと思います」

「富樓那よ、お前の心意気は素晴らしいものだ。しかし、シュロナ国の人々は、気が荒く、言葉も悪いと聞く。お前はそこで人々に罵られたらどうするのか。棒や石で危害を加えられたらどうするのか」

「もし罵られたとしても、危害を加えられたとしても、命は奪われません」

「では、命を奪われたらどうするのか」

「私の命はいつかなくなり、肉体はいつか滅びます。シュロナ国の人々が教えを聞き、目覚めるのであれば、私は何の悔いもありません」

一人でも多くの人にお釈迦さまの教えを伝える為に、自らの命を惜しむこともありませんでした。また、富樓那尊者は、インドの様々な地方の言葉に精通していたと言われています。現代のインドでも、地域によって言葉が違います。ヒンディー語、パンジャーブ語、ベンガル語、カシミール語など、公的な共通語として紙幣には十七種類の言葉が書かれています。公的な共通語の他に、様々な方言があり、言葉が通じないこともしばしばあります。しかし、富樓那尊者は、どの国、どの地域に行っても、多くの人々に話をし、話を聞くことができました。そのお陰で、インドの様々な地方にお釈迦さまの教えが広がりました。

インドで誕生した仏教がシルクロードを通り、中国、朝鮮半島を経て、日本にやってきました。富樓那尊者の様な、説法に長けたお坊さんが、様々な国や地域で人々を教化し、教えを広めたお陰で、私達はお釈迦さまの教えを知ることができます。

(終わり)



インドクタバタ 夫婦道中記 47

東龍寺住職 岩瀬 賢良

『祇園精舎』その二 極楽をイメージした

翌朝、もう一度祇園精舎の遺跡公園をゆつくりと、時間をかけて散策した。経典では「祇樹給孤獨園」と書かれ、貧しい人達を保護し給孤獨長者と呼ばれた商人スタッタは、積尊に帰依し、精舎を建てるのにふさわしい土地を探し、その地主のジェータ太子に土地を買い求めたところ、太子はその土地に金貨を敷き詰めたら売ると言い、言われると

おり実行したところ、太子はその熱意に心を動かされ、祇園精舎（※ジェータヴァナ・ヴィハーラ）ができたのである。

飛鳥文化研究の第一人者で関西大学名誉教授だった故網干善教氏は、一九八九年に祇園精舎の発掘調査を行い、極楽浄土の様相をそのままここに創り上げたのではないかと、というコメントを残している。浄土三部経のひとつ『仏説阿彌陀經』は正にこの地で説か

れているのだから間違いないことである。この経典の中に、「極楽には七宝の池があり、きらびやかな木々が繁り、様々な美しい鳥が美しくさえずる」と書かれており、実際にこの場所に来て自分の眼で見て、耳で聴き、空気に触れば、なるほどなあ、と僕はしみじみと納得したのである。しかも他の仏跡に比べ訪れる人が少なく、ゆったりと見て歩くことができたのも、そういう境地になれたひとつの原因なのだろうか。

一度スリランカ寺に戻った後、今度は周辺の田舎道を散歩に出かけた。祇園精舎に向かって入ってきた幹線道路の方は民家などの建物が並んでいるが、精舎跡から先は中国寺や、プレハブの様な質素な、しかも無人で中に入れない分、ガラス越しにのぞいて出土品がのぞき込める考古博物館などがポツリポツリとあるだけで、そこから先は未舗装の道路が蛇行し、周りは畑と荒れ地が限りなく続いていった。僕はデジタル・レコーダーの

スイッチを入れたまま、音の風景を録音して歩いた。少し風が強くてマイクに雑音が入るのを気にはしながらも、ときおり土煙を舞上げて通り過ぎるバイクやトラックのエンジン音、荷車を引く牛の蹄の音や首に掛けた鈴の音、日本では聴いたことのない小鳥のさえずりなど、今回の旅は音の風景も記録に残したいと思いい、良質な音は期待できなかったが、どこかノスタルジックな場面を留めておきたいと思っていた、そのとおりの風景に出会えた。

※ジェータ太子の土地に建つ寺



スリランカ寺の本堂内 (シュラヴァステー村)

総本山誓願寺だより

○精霊送り・盆施餓鬼のご案内

八月十六日(木)、総本山誓願寺では、精霊送り・盆施餓鬼法要をお勤め致します。お盆の間、里帰りされてきたご先祖さまをお浄土へお送りする行事です。この日京都では、大文字で有名な五山の送り火が行われます。誓願寺へのお参りに合わせて、五山の送り火観光へお出掛けなさってはいかがでしょう。



平成三十年八月十六日(木)
施餓鬼は御一霊三千円。法要は、十一時・十五時・十八時の時間に行います。

また、施餓鬼棚へ水塔婆をお供えする、水塔婆供養(御一霊三百円)も承っております。

○お盆期間中の本山納骨について

お盆の期間(八月十日～八月十六日)、誠に申し訳ございませんが、本山納骨のご予約を承ることができません。何卒ご了承頂きます様、お願い申し上げます。

○誓願寺宝物保存修理結縁寄付の現状報告

平成二十八年十月より募集をしております宝物保存修理結縁寄付につきまして、おかげさまで、皆さまより二百七十七万二千円(平成三十年三月末現在)の寄付を頂くことができました。結縁頂きました檀信徒の皆さまには、この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。順次宝物の修理に充てさせて頂き、修理が完了した宝物につきましては、改めて「ちかい」誌面にてご報告をさせていただきます。宝物保存修理結縁寄付は平成三十三年三月末日まで募集を継続しております。詳細をご希望の方、またご協力頂ける方は、菩提寺までお問い合わせ下さい。

おもな行事予定

- 八月
 - 十五日(水) 六阿弥陀功德日
 - 十六日(木) 精霊送り盆施餓鬼
 - 二十三日(木)～二十四日(金) 少年少女参拝団
- 九月
 - 十八日(火) 開山歴代忌六阿弥陀功德日
 - 二十日(木)～二十六日(水) 秋彼岸
- 十月
 - 七日(日) 策伝忌
 - 八日(月) 六阿弥陀功德日
 - 十日(水) 数珠供養会
- 十月
 - 二十日(火) 西山忌
 - 二十四日(土) 六阿弥陀功德日
- 十一月
 - 二日(土) 仏名会
 - 八日(土) 成道会
 - 二十四日(月) お身拭い式六阿弥陀功德日
 - 三十日(月) 除夜の鐘

クイズコーナー

【問題】

8頁お寺探偵団で、西用寺の旧本堂の鬼瓦に、日清戦争勝利を祝し彫られていた文字は何ですか?漢字五文字でお答えください。

○○○○○

官製はがきに、答え、郵便番号、住所、氏名、電話番号、菩提寺(だんな寺)、感想や質問を必ず書いてご応募下さい。その中より紙面に採用させて頂くことがあります。掲載時には、はがきにてご連絡差し上げます。名前の掲載が困る方は、その時にご返事下さい。今回は、西用寺さまより晋山記念の数珠(男女用一対)を5名さま、本山謹製線香を5名さま、合計10名さまに抽選して差し上げます。ご応募お待ちしております。

【宛先】 千四四四-二五〇五

愛知県岡崎市本宿町東木竹十六番地
欣浄寺内 ちかい編集係

【締切】 九月三十日
(消印有効)

答え ○○○
郵便番号
住所
氏名
電話番号
菩提寺(だんな寺)
感想・質問等

ちかい 第153号

発行日 平成三十年七月五日
発行所 浄土宗西山深草派
総本山誓願寺

京都市中京区新京極桜之町四五三番地
電話 (〇七五) 二二二-〇九五八
FAX (〇七五) 二二二-二〇一九
E-mail info@fukakusa.or.jp
URL http://www.fukakusa.or.jp/

何でも お寺探偵団

さいよう じ 西用寺

Vol.51



今回は愛知県常滑市にある「海松山西用寺」を訪ねました。

profile

堀田 昭 稔 師 (西用寺第24世)
 昭和15年3月生 (満78歳)
 昭和31年円福寺にて法脈相承、大学卒業後の昭和37年より40年間教職に就く。昭和40年に権少僧都、41年甘露院住職、平成10年西用寺住職を各拝命

Q1 お寺の歴史を教えてください。

空翁了円大徳を開基として天正年間(1570年代)創立と伝えられています。その後1719年、1895年、1998年にそれぞれ再建されました。はじめ西用軒といっていました。

Q2 大切にしているものを教えてください。

お祀りしてある仏さまが大切なものはいまでもありませんが、1837年頃に画かれた釈迦

Q3 ご住職の思いをお聞かせください。

自分だけが一人先に行くのではなく、檀信徒の皆さまと一緒に進めたいと思っています。

Q4 「ちわい」の読者に何か頂けますか?

晋山記念の数珠(男女用一對)を5名さまに差し上げます。

たが1923年現寺号の西用寺と改称しました。今も西用軒と刻された石の門柱が立っています。かつては松林にかこまれていたようですが畑地化、宅地化がすすみ、戦争中には船舶用材として松が切られ、近年には松食い虫のため、とうとう昔の松の木は一本もなくなり山号にふさわしくない景観となつてしまいました。

境内地の端に小堂宇があり延命地藏菩薩を祀っています。2m程の大きな石仏です。江戸時代から祀られていて、道路にも面していますので近隣の人たちがよくお参りされています。

に落書きならぬ落彫りまでしても許されたこの時代のおおらかさも感じます。

迦涅槃図は小野四郎(本名高久隆古 江戸後期の画家)の手によるもので毎年涅槃会に掛けています。また旧本堂は1895年に他の寺院から移築されたようですが、その時に新調された鬼瓦には、「日本大勝利」などという文字が瓦職人の名前とともに釘か何かで彫られています。今も庭に残っていますが日清戦争で大勝利した直後の人々の高揚感が感じとれます。同時に寺院の鬼瓦



◀ 本堂



◀ 旧本堂の鬼瓦



◀ 釈迦涅槃図

【交通】
 名鉄大野町駅より徒歩10分

【主な行事】

涅槃会	旧2月15日
弘法大師ご正當	旧3月21日
花祭り	旧4月8日
盆施餓鬼	8月15、16日
地蔵会	毎月23日

【お問い合わせ】
 西用寺
 〒479-0863
 愛知県常滑市西之口6丁目11
 TEL 0569-42-0884